

ようこそ夢の国へ。

東風

タマ

広報委員

岸本 千種

今回のお勧めは、今春上映された「La La Land」（ラ・ラ・ランド）。

ロサンゼルス（LA）を舞台に、偶然が重なり運命的な出会いとなった彼と彼女が、互いの夢を応援し実現する映画である。自分が気づいていかなかったり、こだわって避けていたやり方が現状打開のきっかけになることがある。それに気づかせてくれる人との出会いを描いている。

主役の二人は若いとは言えるが、若すぎない。頑張っているが、なかなか結果が出ずに行き詰つてしまっている。

女優を目指すヒロインは、大学を中退し故郷から出てきて 6 年になる。映画スタジオ内のカフェでアルバイトしながら、オーディションを受け続けている。毎回、瞬間芸みたいな課題を熱演するが、数秒でアウトになる。それでもスマートフォンにオーディション情報が入ると、勤務中でも放り出して、馳せ参じる日々である。

対するジャズピアニストの彼は、自分の店を持つことが将来の目標である。客や雇い主に指図されずに、自分好みのフリージャズの曲を思う存分演奏できる店を持ちたいと願っている。ピアノの腕前は確かで、ひらめきや記憶力も良い。伝統と秩序を重んじ、ストイックに努力と節制を続けているが、残念なことに、理屈先行で周りの無理解を嘆き軽蔑しては、自分の城に閉じこもって、古いものにしがみついている。

そこに、パワフルで魅力満載の彼女が現れて、彼を引っ張り出して次のステージへ進ませるのである。

物語は、クリスマス直前から始まり、翌年の春、夏、秋へと続く。

最初に、大渋滞の LA の高速道路での群舞シー

ン。数十人が路上だけでなく車の上でも踊り歌う華麗な幕開けである。実は、お気楽な場面ではなく、自分の目標に向かっているが、思うように進めない彼女と彼の現実を表現していたことに、見終わってから気づいた。

前半のパーティーの場面も、彼女にとって、チャンスを得るための就職活動である。

そのパーティー帰り、駐車違反でレッカー移動されてしまい、仕方なく歩いていた時に聞こえてきたピアノの音色に引き付けられて、彼と出会う。彼女は、まず彼のピアノに魅せられるのである。性格でも外見でもない。

その後も偶然の出会いが重なり、映画「理由なき反抗」とグリフィス天文台のおかげで二人の距離は縮まる。彼女は、少女時代に脚本を書いていたことを話し、それを聞いた彼から、自分で脚本を書いて上演することを提案される。そうすれば、今の状態から脱出できると。彼女は、アドバイスを受け入れ、早速書き始める。

夏、一緒に暮らすようになるが、彼はまだイソップ物語のキリギリス状態である。彼女が親への電話で「自分の店を持つ目標がある素敵なお人」と説明するが、貯金どころか定職も無い。ここで彼は、自分の店の資金作りと、彼女との生活費を稼ぐために、知人に誘われたバンドに入る。音楽に対する考え方の違いがあっても、レギュラーの仕事を持ったかったのである。幸いバンドは大人気となり、収入も安定するが、多忙になった彼と、まだ芽が出ない彼女との間ですれ違いが生じてくる。

秋、彼はツアーで留守が続き、彼女は一人で家に残ることが増えた。そして「今やっていることをやめて自分についてこないか」という提案を彼から受けるが、彼女は自分の夢への責任を選ぶ。

脚本を仕上げ、稽古をするだけでなく、会場を借りる交渉や道具の準備も不安と心細さの中、やり遂げる。

いざ上演当日、彼女の一人芝居は空席だらけで、大根役者などの悪評まで耳に入ってくる散々な結果であった。彼女は完全に自信を失い、そのまま故郷の実家に引き上げて行ってしまう。残された彼には、なすすべもなかった。

しかし、観客の数は少なかったが、見るべき人は見ていたのである。

数日後、彼の方に配役事務所からチャンスの電話が掛かってくる。「彼女を探している。何とか連絡を取りたい」と。何としても彼女に伝えて説得し、挑戦させるために彼は走りつづける。そして以前聞いた「ボルダーシティの図書館の前」という言葉を頼りに彼女の実家を探し当てる。波乱万丈はあるものの、書くという作戦を取り入れたことで、女優への道が開けたのである。

最初は、頼りにならないキリギリス男に見えた彼だが、最後の場面、念願の自分の店で彼女へ向けた微笑みには、映画「カサブランカ」に匹敵する大人の渋さが漂う。

音楽や挿入歌も多種多様で、それぞれ魅力的である。

最初に彼が繰り返しカーステレオやレコードで聞いては、ピアノで練習していた曲は「荒城の月」である。小学校で習った懐かしい曲に似ていると思ったが、ジャズになると新鮮で、別の曲みたいだった。

彼女と行動を共にする愛車は、トヨタのプリウスで、親しみを感じた。

彼女のルームメイトの一人は、和風な顔立ちのオリエンタルビューティー。長身で姿もダンスも見事で迫力があった。

「少しの狂気が人生に彩りを添える」という彼女の台詞が最も心に残った。彼女の叔母も女優だったが、酒で衰えて亡くなってしまった。けれども、その夢追い人としての情熱を決して忘れない歌うのである。

彼女の故郷で、一人芝居のタイトルにも登場するボルダーシティは、ラスベガスと同じネバダ州にある。LA から約 400km。治安がよく住みやすい街として人気とのことである。

お知らせ・ご案内



山口県後期高齢者医療広域連合からのお知らせ

後期高齢者医療被保険者証を更新します

現在交付している「後期高齢者医療被保険者証」（オレンジ色、以下「保険証」という。）は、有効期限が平成 29 年 7 月 31 日までとなっています。

新しい保険証（薄紫色）は、7 月下旬に被保険者の方へ簡易書留にて郵送いたします。

8 月 1 日以降は必ず新しい保険証にて負担割合のご確認をお願いいたします。

後期高齢者医療の限度額適用・標準負担額減額認定証の自動更新について

現在交付している後期高齢者医療の「限度額適用・標準負担額減額認定証」（以下「減額認定証」という。）は有効期限が平成 29 年 7 月 31 日までとなっています。

減額認定証の更新については、現在、減額認定証をお持ちの方で、平成 29 年 8 月からの減額認定証の負担区分が「区分 I」又は「区分 II」に該当される場合、申請書の提出を省略し、7 月に該当者へ減額認定証を直接送付いたします。

お問い合わせ先：山口県後期高齢者医療広域連合（TEL：083-921-7111）